

令和7年度 第3回松山地域協議会会議録

日 時 令和7年12月17日(水) 午後1時30分～3時30分
場 所 松嶺コミュニティーセンター

出席委員 12名

岩崎 彩	小林 正利	石川 百合子	齋藤 頼雄
新館 武	新館 芳子	荘司 東一	渡部 謙二
池田 重悦	遠藤 均	後藤 由美	櫻田 憲彦

欠席委員 3名

荘司 徳由 白旗 仁美 井上 亜紀子

酒田市出席者

松山総合支所長	鈴木 啓介
松山総合支所長補佐兼地域振興係長	佐藤 賢治
松山総合支所長補佐兼建設係長	加藤 弘樹
松山総合支所長補佐兼市民係長	遠田 夕美

1 開 会

○開会の言葉 佐藤支所長補佐

2 会長あいさつ

○小林正利会長よりあいさつ

3 議事録署名人の指名

○事務局より議事録署名人に、新館芳子委員を指名

4 議事

(1) 地域協議会市長報告会の政策提言について

～事務局より説明～

(小林会長)

皆様から事前にいただいた提言の素案の中で回答が多かった、「眺海の森とさんさんの再開」に関する事、「公共交通」に関する事、「買い物環境」に関する事を課題にしては

どうかと考えているがいかがか。2年前と課題は被るが、松山地域として重要な課題と考えられ、継続して提言していく必要があると思うがいかがか。

(荘司東一委員)

3項目以外にももっと大切なものがあるのではないか。防災を追加してはどうか。

(支所長)

今回、参考資料として事前配布したものは令和5年度の提言書となっている。令和6年度は大変な災害に見舞われた直後であり、当初の予定どおりに協議会を開催できなかったため、防災に特化した内容で提言した。令和6年度の提言書は1回目の協議会で配布している。

(会長)

大項目に追加し、事前にいただいた案をまとめて4項目を提言するといったことでもいいか。

(荘司東一委員)

昨年の7月と9月にこの地域では大規模災害に見舞われている。その対応に関して大きな課題が残っていると感じている。災害があってもすぐに立ち直れるような状況にしていく体制を作っていただきたいと市長へ提言していただきたい。

(会長)

被災された方々は非常に大変な思いをしている状況だと感じているが、今の意見は工事の進め方とか具体的な対応で解決はできないのか。

(荘司東一委員)

それができないから地元で困っている状況である。

(支所長)

竹田地区に限って言えば、国県市で構成している竹田地区の減災のための連絡調整会議で対策を検討しており、その中で竹田自治会の皆様へ減災対策を説明している。その内容が、地元要望と乖離しているため、地元要望とのギャップを埋めていく努力を、その会と竹田自治会とで鋭意行っていかなければならないと思っている。

委員より発言のあった防災を追加することについては、地域協議会の総意ということであれば、3項目にこだわらないで追加していただいて構わない。昨年度提言した内容から進んでいない点などを継続して上げていただければいいのかと思う。

(荘司東一委員)

12月定例会で昨年の災害に対する復興の進捗状況が示されていたが、なかなか進んでいない状況である。竹田地区の内水氾濫については、現在、排水機場の電気設備の更新や

防水対策を実施しているが、地区の総意である、新しく能力の高い排水ポンプに替えてもらいたいという要望が、置いておかれている状況になっており、住民としては納得していない。降水量のデータのとり方も、国では平田の坂本観測所のものを使っている。竹田地区にどの程度雨が降ったのか正しい雨量データを使って示していただきたいとお願いしているが、大分離れた山間部のデータを使って説明していることに地区住民は納得できない。ぜひ松山にも雨量計を設置していただきたい。また、先日地震がおきたが、酒田市では平田にしか震度計がなく、震度4となっていたが市の動きが見えなかった。ぜひ松山にも設置して情報提供をいただきたい。それがないと地区住民は本気になって避難しない。地域協議会より前向きな提言を行っていただきたい。

(会長)

その内容はかなり専門的な内容になる。

(支所長)

震度計は市役所のほか各総合支所にも設置されている。先般の松山の震度は3.2と観測されている。雨量計は松山にはないと発言だったが、臼ヶ沢に県の雨量計が設置されている。昨年の災害では、国の観測施設である平田の坂本の数値をもとに降雨の状況等について説明があった。

(会長)

地域協議会で詳しい内容を議論するのは難しい。竹田地区の説明会ではそのような資料は出していないのか。

(支所長)

国県市での連絡調整会議において、竹田自治会の皆様からいただいた要望に対し、真摯に検討した結果を8月に説明している。竹田自治会の総意は排水機場のポンプの全面更新であったが、国はできないといった説明であったため、その話し合いの中でそのギャップを少しでも埋めていく努力が必要であると考えている。

(会長)

防災については、具体的な内容ではなく、地域住民の要望と近付けていただくようにという形でまとめてはどうか。

(渡部委員)

ただ今の意見は貴重な意見であり、継続して防災に関する提言をまとめるということは有意義である。ただし、ポンプの更新とか専門的な内容は本協議会との提言の趣旨と少しずれていると感じているので、記載内容を簡略化したうえで、防災としては項目を上げた方がいいのではないかと考えている。昨年度の提言書に防災ラジオをあげているが、相変わらず使えな

いという話が地域住民から出ている。ぜひ防災ラジオを有効に使えるようなものにしていただくよう継続して提言していただきたい。

(会長)

防災ラジオは市全体の課題になるのでは。

(支所長)

松山地域だけの課題ではない。防災ラジオは公共の電波を使用しているため地域を限定して放送することができず、市全域に関係するような緊急性のある内容しか割り込んで放送することができない。ただし、地域は限定されるが一刻を争うような内容、例えば去年の竹田地区の内水氾濫などは、放送の基準を再考すべきではないかとの意見もある。

(会長)

提言の大項目として、防災も追加し4項目とする。それでよろしいか。

(委員一同)

異議なし。

(会長)

それでは要望の内容について、皆様より意見をいただきたい。眺海の森についてはとても難しい問題で、民間の協力がないと進まないと感じているが、県民の森となっているので県の協力をもっといただけないかと思っている。さんさんを民間企業において開発するという話もあり、大変喜ばしいことであったが、結局御破算になってしまっている。ただし、環境に関しては県より保全事業は継続いただいている。令和5年度の提言がベースとなってくると思うがいかがか。

(池田委員)

活性化していただきたいという要望になると思うが、市が動くとお金が莫大にかかることなので、それ以前になぜさんさんは廃止になったのか原因を市は把握しているだろうか。指定管理者もいろいろ創意工夫をしたが、客がどんどん減って行って消極的になっていき、採算が取れなくなって撤退したと聞いている。その反省は市ではしているのか。その反省を踏まえて活性化するために何か手段を選んでいるのか、地域に何を求め地域がどのようにすれば、再開に向けて予算をつけるとか何もないのか。その辺について明確な話はない。

公共交通も同じ。バスの廃止の相談があった際に、地域からの要望で朝夕の通学時間帯だけ動かしていただいた経緯がある。しかし、朝は砂越駅からの電車が出てからバスがつき、帰りも接続が合わないダイヤとなっていて利用者が使いやすいような配慮はなかった。それで市からは、地域の要望を受け動かしたが利用者はいませんでしたと示され、結局廃止となった。市内の高校に行くために必要だと検討したが何人乗らない実績で、数値を見

せられると何にも言えなくなった。廃止までの経過措置はあったが、市の言っていることはおかしい。バスのことだけ言っても配慮はされない。眺海の森を含め、市は地域でどういことをしたら動いてくれるのか、要望だけでは先には進まない。どうしたら予算を付けてくれるのか、会長から市長へ直接聞いていただきたい。

(岩崎委員)

バスの廃止の件だが、詳細について提案していなかったのではないかな。

(池田委員)

当時行っている。市だけではなく、運行会社に行って社長と直接相談もしている。JRの接続に合わせて運行したら、かなり利用が増えるのかと具体的な話をされた。学生の人数も限られているので、通学者の大半が乗っても大して増えないと言われ進まなかった。

(岩崎委員)

具体的な数値を示して交渉すればいいのでは。数値がなくてただ動かしてくれでは市は動いてくれないのでは。

(後藤副会長)

実際デマンドタクシーを買い物に使っている人はいるのだろうか。いないからバス運行が廃止になったのではないかな。再開したら本当に使うのか。さんさんやバス、スーパーが再開したら地域の方は協力して使うのか。地域の人も使わなくなって廃れていったのではないかな。採算もとれるのかという疑問が残る。苦勞して再開しても誰も使わないのであれば、お金の無駄になる。

(支所長)

令和5年度に提言書に対し当局から回答をいただいているが、すべてに回答いただいているわけではない。明確に回答がなかったものに対し再度提言することも考えられる。例えばイオンバスの件や眺海の森の支障木の継続的な伐採など。また、買い物環境についてもアンケートをとったが、移動販売車の要望が少なからずあった。移動販売車の派遣の試行の支援などとりあげることもできる。

(会長)

最終的には採算が課題になっている。山寺コミュニティ振興会では100歳体操を同日開催にして移動販売車を誘致したいと考えていたところ。それを他のコミュニティ振興会にもお願いしたいと考えており、週に1回でも移動販売車より回ってもらえるようにしたい。結局採算になるので具体的な数字を出さないと難しい。公共交通も高校生の足にバスを復活とあるが部活もあり帰りの時間もバラバラであるので難しいところもあるのでは。

(池田委員)

バスを大型から小型にしたがそれでも採算はとれないと言われた。少なからず交通弱者はいるので1人2人のためでもある程度は考えなければならない。収益が上がればこのような議論にはならない。どうしたら支援ができるか対策を講じてもらえるのか。相手方も大きい車で30人40人乗せて動かすのも1人、小さい車で1人乗せて動かすのも1人の運転手が必要と常々言われる。そう言われると結局廃止するしかない。でも、困っている人は少なからずいるので、1人でも2人でも困っている方がいるならその意見を聞いて対処する必要があり、そのための地域協議会だと思っている。皆が自分で対応できるなら何もいらない。

(会長)

市内のるんるんバスを見ても昼間は誰も乗っていない。少しは郡部に回してもらえれば。

(石川委員)

朝1便だけでもこちらに回していただければ。朝だけしか乗っていない。1本だけでもぐるっと回っていただければ。

(齋藤委員)

平日日中家族が家にいないので、高齢者は外に出れない。バスを平日の日中に数本だけでも動かしてもらうだけでもありがたいのでは。

(支所長)

おそらく市街地でもそうなので、郡部に回したとしても同じなのではないかと思われる。廃止したものを復活するのはなかなか難しい。デマンドタクシーは家まで来てくれるので、そちらの方がいいという高齢者の方はかなりいる。今ある仕組みをいかに効率的で効果的に改めていく方が現実的かと思われる。

(池田委員)

デマンドタクシーの利用者はどんどん増えているのか。

(支所長)

人口減少の影響もあってか大幅には増えていない。

(遠藤委員)

当日でもデマンドタクシーは予約できるのか。高齢者はほとんど登録しているのか。

(支所長)

原則当日の2時間前まで予約が可能となっているが、朝の便は前日の17時まで予約が必要となっている。登録人数の把握はしていないが、免許を持っていない方の登録は多いと思われる。

(齋藤委員)

デマンドタクシーの行きはいいが、どうせなら医院の帰りに2・3カ所兼ねて行きたい。そうすると帰りが不規則になる。その帰りの時間を遅くするなど利便性を上げた方がいい。

(池田委員)

その方が改善できる。今使っている現状の中で改善してもらおうことの方が具体的でいいと思う。利用するか分からないものより、今利用している方から不便だという声を上げてもらって改善したほうが効率的によくなる。それが改善できればデマンドタクシーを使う人が増えてくると思う。

(会長)

デマンドタクシーの乗降場所、便数、時間を融通していただければいいと思う。さらに行き先が複数できるよう提言することで、買い物環境と公共交通をまとめられる。

(新館武委員)

さんさんの再開について、令和5年度提言書の回答だが、現在はどのようなになっているのか。当時からどのように変わっているのか、踏み込んだ内容が出てくるのか。毎年議題にのぼるが検討しているで終わっている。一步進んだ踏み込んだ形で担当課から具体的な回答があればいい。他市町村での類似施設の活用方法などはないか。調査費を計上してもらってコンサルなどに調査を依頼するなどできないか。交流観光課の動きが一番重要。支所で情報を聞いてこの場で情報提供をいただきたい。

(会長)

民間は確定しないと難しいのでは。

(支所長)

民間企業との交渉はなかなか口外できない。交流観光課でコンサルを入れて調査もしていると聞いている。コンサルからは福祉施設に活用してはどうか、それならすぐにでも活用できるといった回答をいただいたが、地元は望んでいないということで進めていない。

(新館武委員)

難しいと言っているのは先には一步も進まない。検討しているときれいな言葉で言っているが、本当に動いているのか何もしていないのか分からない。地区でも頑張っているとか言わないと積極的に動いてくれないのでは。

(池田委員)

ぜひ市からは年次計画を出してもらいたい。行政として5年スパンでどうしたいのか出してもらいたい。要望しても検討中を繰り返している。それを何年繰り返しているのか。

提言する内容は資料にあるとおりでと思う。具体性が見えないので、どういう提言や要望をすれば実現するのか、本気度を示してもらいたい。直接会長より市長へ訴えていただきたい。5か年でのビジョンを示してもらいたいと強く伝えてもらいたい。

(齋藤委員)

県民の森でイベントを行うのは難しいのか。小さいイベントでもいいので人の集まるイベントを開催していただけないか。

(支所長)

かつては支所でもイベントをしていたが、さんさんがあってのイベントであった。民間で野外ステージを使いたいという問い合わせがあったので、来年動きがあるかもしれない。

(渡部委員)

イベントは難しいと思う。今上がっている項目で提案をまとめていただいて、あとは会長より思いを直接ぶつけていただければ。

(会長)

市長へ会うたびに眺海の森の件は話題にしている。具体的な回答はいただけていない。市長報告会で思いを伝える。

(新館武委員)

所管課はどこになっているのか。支所で繋いでいただくことはできるのか。イベントの話が出たが、マラソンとかいろいろ考えられる。他市町では考えていろいろな取り組みをしている。酒田市と合併した旧町は何もしていない、PRもしていない。ぜひPRについて頑張って発信していただきたい。何か支所で考えていることはあるのか。

(支所長)

所管課は交流観光課になる。支所の職員だけではマンパワーが足りないので、地域おこし協力隊を支所に1名配置に向けて募集をするところ。我々とは違う、若い民間の力でPRと振興につなげていければと考えている。

(会長)

ぜひ進めて実現していただきたい。来ていただければ街の雰囲気も変わってくるのでは。

(池田委員)

旧2町では協議会での提言のほか自治会連合会、コミュニティ振興会連合会で同じ要望が出てくる。松山では連携が取れていないように見える。支所ではどのように取りまとめているのか。そういうのが一番耳を傾けていただく有利な進め方だと思う。

(支所長)

八幡・平田の要望に関しては、総合支所で取りまとめたわけではない。

(石川委員)

市議会議員から来てもらうことはできるのか。そのような地域の代表からもっと声を上げていただければ効果があるのでは。議員からも声を上げていただければ。

(池田委員)

そのような連携が必要だと思う。市長だけではなく議員にも要望するべきだと思う。

(会長)

市長に直接言えるので、議員を巻き込む必要はないのでは。表には出ないが議員も活動はしていて大変なようだ。

(新館武委員)

議員とのやり取りは地域協議会ではやっていないということで、似たような組織でもやっていないということになる。県では総合支庁と議員との協議会はやっている。それに地域の要望を議員に対して行っている。総合支所との議員とのやり取りはやっているのか。

(支所長)

市では協議会と議員との話し合いはしていない。自治会連合会では市議会議員との意見交換会はしている。

(池田委員)

八幡と平田は総意として何回も同じ要望を行っている。しかし回答は来ていないとのこと。

(会長)

今年の提言書はもっと強力にアピールする文面にしたい。これに防災を加える。4回目は完成した提言書案を基に文書で回答いただく文書開催としたいがいかがか。

(支所長)

4回目は完成した提言書案を郵送するので、それに対し、皆様より意見書を提出いただく文書開催とさせていただきたいと考えている。会長・副会長と協議して提言書をまとめていきたい。

(委員一同)

異議なし。

(会長)

それでは4回目は文書開催とする。提言書が届いたら回答をお願いします。市長報告会では皆様の思いを代表して市長へ強く提言してくる。

(石川委員)

イオンバスの運行には市では関与していないのか。

(支所長)

していない。民間のバスとなっている。

5 その他

なし

6 閉 会

(副会長)

これで第2回松山地域協議会を終了する。円滑な議事進行に協力を賜り、感謝申し上げます。

(支所長補佐)

提言書案がまとまり次第、意見書様式を同封して、皆様に郵送する。1月中旬頃を予定しているのご協力をお願いしたい。